

壺 阪 寺

平成27年(2015年)1月～4月 行事予定

●1月

1月10日(土)～2月28日(土) 秘仏厄除け観音 特別開帳
 1月18日(日) 初観音
 11:30～ 住職法話会
 13:30 初観音仏名会法要・真言の森

●2月

2月1日(日)～2月4日(水)星祭り祈禱会
 2月3日(火) 節分会
 11:00 住職法話会
 11:30 節分会(大般若転読会)
 12:00 昼食
 13:00 星祭り祈禱特別坐法要

●3月

3月1日(日)～3月31日(火) 壺阪難曼荼羅ご開帳
 3月18日(水) 彼岸回向会
 11:30 住職法話会
 13:30 彼岸回向会・奥之院参拝

●4月

4月2日(金)～6月7日(日) 高野山開創1200年記念 壺阪寺二大塔同時開帳
 重要文化財三重塔開扉(秘仏大日如来像御開帳)
 多宝塔開扉(秘仏大日如来像御開帳)
 子島荒神像御開帳

史上初めて、壺阪寺二大塔(三重塔、多宝塔)を同時にご開帳します。併せて本堂において、秘仏子島荒神像をご開帳し、真言宗ゆかりの御仏像をご参拝頂きます。

編集後記

去年7月に本部に異動になり、94号より編集等を行っている徳田です。広報の経験は浅いですが、どのような誌面が読みやすく、より読者に伝わるのかということを考えながら誌面作りをしています。

来年「つぼさか壺心会」会報は100号を迎えます。福祉活動をしている団体は沢山ありますが、50年以上にわたり活動している団体はなかなかありません。ご支援頂いている皆様のおかげだと感じています。また、長年にわたり様々な場所で働いている職員の成果ではないでしょうか。

今後も広報を通じて私たちの福祉活動に共感していただけるよう、お伝えできたらと考えています。感想やご意見を頂けたら広報委員の励みになります。今年もよろしくお祈りします。(徳田)

発行・編集/お問合せ 壺阪寺福祉事業後援会 つぼさか壺心会
 〒635-0102 奈良県高市郡高取町壺阪3 電話:0744-52-2016 FAX:0744-52-3835

壺阪寺 <http://tsubosaka1300.or.jp/>
 (社福)壺阪寺聚徳会 <http://tsubosaka1300.or.jp/shutokukai>
 (一財)アジア・アフリカ国際奉仕財団 <http://aivjapan.org>
 ※新しくなりました。スマートフォンでもご覧頂きやすくなりました。

ホームページ

つぼさか壺心会 95号




お正月の餅まきにて

あけましておめでとうございます。本年も宜しくお願いします。

戦後七十年目を迎える平成二十七年。七十年という節目を迎えて、これからの社会の在り方を問い直すいい機会を頂いたようにも思います。七十年の間に、様々な社会改革、技術革新が行われ、人間の周りに便利なものが増えましたが、逆に失われたものも多いようにも思います。そのような感じからか、新しい価値を見いだせねばならないという多くの識者の皆さんが、評論されています。モノがあふれ、モノや人の行き来が多くなり、また速くなってまいりました。手のひらより少し大きな電子機器には、瞬時にしてその日の出来事、自分の知りたい情報が送信されてくる時代に便利さに惑わされずに新しい価値を見出そうと言われても、難しいものだと毎日感じるばかりで、無為な時間を過ごしてしまいます。

今年は戦後七十年の節目、壺阪寺の歴史では、インドとの交流が本格的に始まって五十年になります。逆算すれば、戦後二十年で、インドへの奉仕活動に参加させて頂いたことになりました。

この奉仕活動の先頭に立たれたのが、当時七十才になろうとされていた宮崎松記博士、^{みやざきまつき}何も無いインドに、それも戦後二十年の日本人が奉仕活動に率先していくという精神復興の早さは、今の私たちにはない意思の強さを感じます。その意思の強さに感銘を受けて、先代住職が復興半ばであり、慈母園の盲老人福祉も緒に就いたばかりの寺を挙げて協力したと思います。先達の二人の強い意思がインドでの奉仕事業という価値を生み出し、壺阪寺のインド国際交流五十年という交流史の源を創っているように思います。

技術の発達、政治体制の変化は、人とモノの往来を呼び、様々なビジネスを創造し、より一層の豊かな社会を創造していくと思います。そこには、情報もサービスもその早さ・安さだけを競うのではなく、人間の意思の力を磨き、生きがい、気概を考え、与えるような価値サービス、社会事業が求められているように思います。

無為な時間を過ごさず、新しく、そして、多くの生きがいをあたえられるような社会事業を創造し、その事業が多くの方の杖になるよう精進したいと思います。

合掌 壺阪寺住職 常盤 勝範

施設だより

1年を振り返って 各施設の取り組みから

つばさか壺心会
壺阪寺聚徳会には5つの施設がありそれぞれに特色のある行事や取り組みを行っています。今号では1年間の振り返りを行うとともに、各施設について紹介していきたいと思ひます。

じぼえん
盲養護老人ホームの慈母園（奈良県高取町）や
ごしきえん
五色園（兵庫県洲本市）では日頃視覚障がいをお持ちの方が自立して暮らしやすい施設運営を行っています。また「介護が必要になっても園で生活をしたい」という声にこたえるため、今年4月からは「外部サービス利用型特定施設」へ移行する予定です。今後は長く暮らして頂ける施設づくりを行っていく予定です。

こうみょうえん
特別養護老人ホーム光明園（奈良県高取町）と
だいにじぼえん
第二慈母園（奈良県斑鳩町）では施設内での生活だけでなく、デイサービスや在宅介護支援など複合的に介護支援を行っています。この1年は地域貢献や職員研修に力を入れました。

障害者支援施設明日香園（奈良県明日香村）は障がいがあり24時間介護の必要な方の支援を行っています。利用者一人一人に寄り添い、希望を叶えるような外出を行うなど工夫しています。

今年も引き続き、ご利用者にとって生活しやすい環境づくりや生きがいとなる行事などを行ってまいります。



光明園 職員会議の様子

明日香園
白鳳祭個別外出風景

行事編

慈母園にて初開催『慈母園まつり』

今年、初の試みで「慈母園まつり」を10月25日と26日の2日間にわたり、開催いたしました。

例年行っていた、「夕涼み会」と「文化祭」をひとつにして、ご利用者家族、ボランティア・地域の方々に慈母園について、もっと深く知って頂きたいという思いから、各クラブの展示品紹介や点字体験、マッサージサービス、アイマスク体験、演劇の公演と色々なコーナーを設けました。

掲載している写真はクラブ活動や慈母園での日々の生活を感じてもらえるよう飾り付けを行ったものです。

下の写真は、ご利用者のみで結成した演劇団(愛園座)の公演の様子です。準備に演劇練習と、ご利用者・職員が一致団結して取り組んだ結果、来て頂いた方に喜んでもらう事ができたと思います。今回、演劇で使用する小道具の作成や展示会場の準備は実行委員だけではなく職員全員で時間をつくり行って参りました。

来年は更に内容を充実したいと意気込んでいます。

(支援員 田野上 剛)



華道クラブ展示作品作成の様子

あいえんざ
愛園座のみんなで

施設だより

取り組み編

明日香園での担当業務と秋祭りについて



秋祭り 音楽療法の発表



秋祭り ホームごとの出し物

明日香園では職員が担当業務を受け持っています。担当業務には施設の業務に関する担当(環境整備、備品担当(発注)、防火管理、安全運転、実習生担当、新人担当)、年間の行事を計画し実施する担当(ハイキング&バーベキュー、秋祭り、クリスマス会、新年会)、ご利用者のクラブ活動を支援する担当(音楽療法、プレイルーム活動)があります。

各担当は、年度初めに1年間の活動計画を立てて活動を行います。例えば、環境整備では通年に亘り草刈り、6月に畑で苗植え、10月に収穫、7月に花壇の整備など。これらの計画通りに実施できたときは、各担当の達成感は大きく、今年の秋祭りでは音楽療法の発表、ホームごとの出し物など、ご利用者、家族様ともに笑顔あふれた1日となりました。

日常の支援の合間に行うことが多く、各担当の頑張り、施設として充実した支援ができております。各担当が力を合わせてこれからも味わい深い良い施設にしていくように頑張っていきたいと思っております。

(支援員 江本好隆)

取り組み編

五色園 食事についての取り組み



敬老の日の食事にて

養護盲老人ホーム五色園では、日々ご利用者の皆さんが楽しく食事をとっていただけるよう、ご利用者の意見を聞きながら様々な食事を行っています。眼の不自由なご利用者の皆さんにとっては、お膳の前にどんな食事がなっているのかを想像できるよう、献立説明の他にも膳の中にある料理の配置説明を行っています。

食事内容としては、朝食には、御飯やパンの日以外にお粥の日があり、朝に胃腸の調子を整える食事をご用意しています。また、通常の食事の他に、毎週水曜日にはセレクト食、行事として屋外食なども行い食事に変化をつけています。

五色園は淡路島にあり、漁港に近いことから、特に新鮮な魚料理を楽しむ事が出来ます。様々な行事の時にご利用者の皆さんから食べたい食事を募ると、刺身・寿司・焼肉・そうめん・天ぷらなどの希望が多数あり、特別な行事には、ご利用者の大好きな物をたくさん食べて頂いて食を楽しんで頂くようにしています。しかし、味の好みや、健康状態で食べ物の制限があったり、食事を全員が満足していただくことはとても難しいことです。毎日食べる食事だからこそ、これからも、ご利用者の意見を聞きながら職員一同、楽しさを考えていきたいと思っております。(主任支援員 新田 良)

慈母園「奈良県省エネ節電所エコチャレンジ」事業部門優秀賞受賞！

奈良県や関西電力などの業界団体でつくる「奈良県節電協議会」(会長＝荒井正吾知事)が今夏初めて実施した『奈良県省エネ節電所エコチャレンジ』の表彰式が10月29日県新公会堂で行われ、慈母園が事業所部門で最優秀賞に選ばれ表彰を受けました。

節電への具体的な取り組みとして、職員に月々の使用量や節電効果を知らせ、節電意識の向上に努めました。使用電気製品の更新時には、職員の意見を取入れ省エネタイプに更新。また、ご利用者の居室の室温上昇をなるべく抑えるため、遮光・遮熱効果の高いカーテン・簾を使用しました。

このようなみんなの協力があって素晴らしい賞を頂くことができ感謝しています。(支援員 坂西保夫)



慈母園の自治会である慈友会の役員と

施設だより

職員編

第二慈母園 職員による地域貢献

第二慈母園では、施設へ入居されておられる方への介護とは別に、地域で暮らしておられる方々の為に、家族介護教室などを通じ、斑鳩町福祉課と連携しながら、基本的な介護技術の習得や、ひと手間の工夫を考えていただくという研修を行っております。

施設とご家庭で介護をする場合の大きな違いは設備面です。我々職員も、この様な講義を行う事で、施設ではあたりまえに取り入れられている、既存の設備がない在宅生活者の苦勞を理解し、参加された方も、ご家庭での介護方法との違いや、導入すべき物、日頃の介護に対するひと工夫等に理解を示されます。

又、参加者の方からは、このような場合はどの様にする方が良いのか？といった事に、実際に介護方法を行って頂く事で、ご家庭に戻られてその日から、直ぐに実践する事が可能になります。今後もこの様な施設外での活動を継続して、地域で生活されておられる方へも、情報提供が出来ればと思っております。（支援員 大西宏則）



5

家族介護教室にて(4枚とも)

職員編

光明園 努力の先にあるもの

光明園では、毎月4回以上の会議(班会議・ケアサービス会議・給食委員会・運営委員会等)を開催しております。さらに、毎月2回以上の職員研修も開催しております。すべては、当園で生活しておられるご利用者の生活の質の向上と職員の資質の向上を目指してという目標のため、努力を重ねております。

日中は、ご利用者の方の生活を支えているため、なかなか時間がとれず、会議や研修の多くは、ご利用者の方が休まれてからの夜間帯に行います。夜遅くまで、明かりが灯る部屋を見て、『今日は勉強?遅くまでご苦労様』とおっしゃって下さる方もおられます。

会議の内容として、その人らしく生きることとは何なのか?を根底に、安全・安楽に生活して頂けるように、話し合いを行い、援助方法を決めさせて頂いております。

職員研修では、介護技術・医療知識、法令に至るまで幅広く勉強し、時季的な問題(食中毒・インフルエンザ・ノロウイルス等)にも迅速な対処ができるように、繰り返し訓練をしております。

これからの課題としましては、日々の業務・援助に追われるのではなく、職員がゆとりを持って、ひとりひとりのご利用者の方としっかりと向き合い、共に生活をしているんだと思ってくれるような施設を目指していきたいと思っております。（副施設長 鳥越信孝）



AEDの使用研修にて

6

明日香園での個別外出

主に知的障がいをお持ちのご利用者が入居される明日香園では、「個別外出」と呼ばれるご利用者ひとりひとりの希望を叶える外出があります。1人では外出できないご利用者にほぼマンツーマンで職員がつき、1日かけて希望の場所に外出するというものです。過去の行き先では、大阪モーターショー、歌手コンサート、温泉、動物とのふれあい、学園祭などなど、バラエティーにあふれています。

希望の場所に外出できるとあって、ご利用者の皆様はとても生き生きされ、職員も普段とは違った一面を発見でき、新しい支援につながる楽しみがあります。

その一方、歩行困難な方や行動にこだわりがある方など、下調べが大切です。職員が初めての場所などイメージができない場合は、下見に行くこともあります。

その日が成功したときはとても感慨深く、数少ない個別外出が、楽しみで笑顔が溢れる1日にするためにこれからも頑張っていきたいと思っております。（支援員 江本好隆）



個別外出にて

施設だより

障害者施設ってどんな種類があるの？ (障害者支援施設について)

障がいがある方が利用される施設・事業所には障害者総合支援法に基づく、下図の種類があります。これら施設はご利用者のニーズ、目的、障害の程度などから「本人、家族、市町村(区分認定)、福祉相談事業所、施設等」が関わり総合的に決定されます。

- ①就労移行支援事業所
- ②就労継続支援事業所(A型・B型)
- ③生活介護事業所
- ④**障害者支援施設**
- ⑤地域活動支援センター
- ⑥小規模作業所

※太字は壺阪寺聚徳会が運営している施設

障害者支援施設とは？

障害者支援施設は、事故や病気による障がいがある方や、先天性の疾患で障がいを持つ方のうち、常時介護を必要とする18歳以上の障がい者を受け入れる生活施設です。

障害者総合支援法に基づき、昼のサービス(日中活動事業)と夜のサービス(居住支援事業)を提供しています。また、在宅で生活している方は、生活介護と短期入所(ショートステイ)をご利用いただくことができます。利用される方、一人ひとりの個別支援計画を作成し、利用目的に合ったサービスの提供をおこなっております。

障害者支援施設の特徴

障害者支援施設は障害の種別(身体障害・知的障害・精神障害)にかかわらず、障がいのある人々が入所できる施設となっています。しかし、前法律に基づく施設から引き続き入所されている方がほとんどで、それぞれの施設によって専門としている障害が分かれているのが現状です。

障害者支援施設の費用

障害者支援施設への入所費用は初期費用は必要なく、月額利用料が必要となります。月額利用料は障害者支援区分によって差があり、おおよそ6万～8万円程度となります。

障害者支援施設への入所基準

障害者支援施設の入所対象者は年齢18歳以上の障害者認定区分が4以上(50歳以上は区分3以上)利用者という基本条件のほか、健康状態等、施設によって様々で、詳細は施設に問い合わせる必要があります。

障害者支援施設で 提供されるサービス

障害者支援施設で提供されるサービスは食事・排泄・入浴等の日常生活の介護、支援、機能訓練、健康管理、創作活動または社会的活動を提供します。

ご利用者一人ひとりに対して作成する個別支援計画書に基づき、その人の個性や生活リズムを尊重したサービスを提供します。

入所までの手続き

施設を利用するには市町村の障害福祉窓口にご相談し、障害支援区分の認定、取得が必要です。その後、本人、相談支援事業所、施設との話し合いを踏まえ、施設との契約となります。

障害者支援施設の課題・問題点

障害者支援施設の抱える問題としてご利用者の高齢化があげられます。老人施設とは違い入所可能な年齢幅が18歳からと広く、施設開設時に若かったご利用者が、高齢となりつつあります。それに伴い、年齢に応じたサービスの内容、施設内のバリアフリー化、支援員の専門的な知識や技術などハード、ソフト面での変化する時期にあります。

また、緊急時の病院の受け入れが難しいことがよくみられます。通常の医療行為が受けにくいこと、入院時の対応が難しいことが原因です。今後、終の棲家として安心して施設生活を送っていただけるか心配されるところです。

インド・ロパ・ムドラ学校での職業訓練について

一般財団法人アジア・アフリカ国際奉仕財団では数年前よりロパ・ムドラ学校(インド・アグラ)において女性たちの自立支援活動を行っています。

今までは学校を卒業後、結婚、出産をしたあと仕事をしようと思っても職業経験がないために、仕事に就けない現状がありました。また、仕事に就くことができないため現金収入が少なく、平均月300円程度の学校の授業料も支払えない家庭がほとんどでした。

そこで、2009年より財団職員が主体となり学校でビーズなどを使った小物づくりをはじめました。しかし、母親によって意識に差があったり、職員が長期滞在出来ないため技術指導ができないなど問題もありました。

その後、2012年より政府の許可証がもらえる職業訓練へと移行しました。これは2010年ごろよりインド政府が「職業訓練で技術と知識を持つことが、個人や国を豊かにする」という方針を打ち出したことから、学校の運営委員の方々が提案してきたものです。

当初は「裁縫コース」から始め、2014年7月から「ビューティシャンコース」が加わりました。

「ビューティシャンコース」は写真にあるような結婚式等での髪結い、ヘナで手や腕に模様を描くメヘンディ(2週間ほどで消えるもので、お祝いや行事の時に女性がするもの)、着付け、糸を使った顔や腕などの毛抜きなどを学びます。

これらの技術があれば、普段美容院で働けるだけでなく、結婚式など儀式的場で個人でも働くことが出来ます。

現在職業訓練を受けているのは18歳以上の女性です。以前は卒業生であれば15歳程度でも学ぶことが出来ましたが、児童労働につながる恐れもあることから現在は18歳以上(特に生徒の母親)に限定しています。

母親たちが学校で学ぶ姿を見ていれば、学校で学んでいる生徒たちも将来技術を身に付けるためにも、勉強することの大切さを肌で感じる事が出来ます。

現在は2コースのみですが、学校からはコンピュータなどを学ぶコースを設けたいという希望があるため支援していきたいと考えています。



裁縫コースの様子



髪結いを学ぶ



糸をひっかけてうぶ毛をぬいていく

ウガンダ・ンゴビヤ学校 校舎増築にご協力をお願いします



スラムの道に面するところ。右の建物が校舎

1995年よりウガンダの首都カンパラ近郊にあるンゴビヤ学校の支援を行っています。学校の運営費や備品等の購入、生徒の給食費、そして学校で暮らしている孤児たちの生活費用を毎年20万円ほど支援しています。

スラムで暮らしている子ども達の問題は悪く、失業率が60%のウガンダでは子どもも毎日の生活を支えるために働かざるを得なかったり、またHIV/エイズなどで親を失った子どもも沢山います。そんな中、学校は子どもが学んだり遊んだりできる場所です。

財団職員がウガンダに出張することが難しいため、2年前より特定NPO法人テラ・ルネッサンス(京都市)の職員の方に訪問していただいています。2014年3月に訪問していただき、学校関係者と現状報告等をしてもらいました。

その際、学校側からスラムの道沿いには門もないため安全面で心配があること、生徒数が増えていることから校舎を増築したいという希望がありました。そのため、学校を増築する予定です。ウガンダの文化に習い数年かけて校舎を作る計画ですが、今年度は30万ほどかけて1教室作る予定です。

詳細は来年初夏発行(予定)の活動報告書で報告させていただきます。

「壺阪寺インド祭り」への来場ありがとうございました

11月2日に壺阪寺境内にて「壺阪寺インド祭り」を行いました。これは毎年11月にイベントを通じてお寺とインドの関係や活動内容などを知っていただくものです。

今年は活動報告に加え、インド映画「きっと、うまくいく」の上映やカレーのふるまい、物品販売などを行いました。また「一般社団法人奈良県鍼灸マッサージ師会」の奉仕活動も同時に行いました。

当日は442名の方に来場いただき、インド物品の売り上げが141,930円、募金が11,255円ありました。これらはインド・ウガンダ地域での支援活動に使わせていただきます。

ありがとうございました。



活動報告にて常盤勝範副理事長より挨拶